



NCAのホームベースである成田空港には、昨年本社機能も都内から移された。机上だけではいいアイデアは生まれないという現場感覚重視のひとつ。

航空貨物の世界を知っていますか？

エアカーゴ調査隊

第15回

貨物航空会社で働くということ

文＝阿施光南 編集協力＝日本貨物航空(NCA)

航空業界で働く面白さはいろいろとあるだろう。だが旅客と貨物を運ぶのでは少し違いがありそうだ。世界的にモノを動かすことで大きな価値を与える。それが航空貨物、国際物流事業の醍醐味といえそうだ。

**物流がモノの価値を高める
そんな可能性を追求したい**

航空業界は学生に人気の高い就職先のひとつである。なにしろ華がある。パイロットやメカニック(整備士)、客室乗務員や空港の旅客スタッフに一度は憧れたという人は多い。一般の地上職にしても世界をフィールドに活躍できるという期待に胸がふくらむ。現実にはそんなに華やかな仕事ではないともいわれるが、それを言い出したらどんな仕事も同じだ。

ところが貨物専門の航空会社は少しイメージが違う。「者」か「物」かという違いはあるものの、同じように飛行機でモノを運ぶ仕事である。しかし(失礼ながら)あまり華やかなイメージはない。さらびやかな客室乗務員や旅客スタッフがいなからだろうか。しかしパイロットやメカニックの仕事は旅客航空会社と同じだし、一般地上職も世界を股にかけて仕事をするというダイナミズムは同じであるはずなのに。

実際、貨物航空会社を志望する学生も旅客航空会社を志望する学生とは少し志望が違う人が多いそうだ。NCA人事チームの岡裕昭チームリーダーに聞いてみた。

「飛行機が好きだという人が多いのは旅客航空会社と同じだと思います。しかし、たとえば旅客航空会社を志望する人が併願するのは旅行業や接客業が多いのに対して、NCAを志望される学生さんが併願するのは海運などの国際物流業界が多い。やはり旅客航空会社とは、少し傾向が違うように感じます」

確かに旅客航空会社を「国際物流をやりたいから」という理由で志望

した人はあまり聞かない。では国際物流の面白さというのは、どういうところにあるのだろうか。

「ただモノを運ぶというだけでなく、それによって価値を高めることができるということでしょうね。私たちはメーカーのように自分たちでモノを作っているわけではありませんが、しかしモノは、ただ作られただけでは何の価値もない。それが必要とされる場所の確に運ばれて初めて大きな価値を持つようになります。そんなお手伝いをするのができるというのが面白さのひとつです」

とりわけNCAが追求するのは飛行機だからこそ実現できる可能性である。

「いまでは海外の野菜や果物が当たり前のようにスーパーに並んでいます。これも航空貨物が普及したからこそのことです。飛行機ならではのスピードと機動力が、人々の生活を大きく変えている。そうした可能性はまだまだ色々とあるはず。よく学生さんには「会社ではどんな仕事をするようになるのですか」と聞かれますが、そうではなく「自分はこんな仕事をした」という夢や野望を語っていただきたいですね」

**地道な改善と劇的な改革
それがNCAで働く醍醐味**

NCAでの仕事は、大きくは三つに分けられる。まずはパイロットやメカニック、デイスパッチャーなど運航に関わる仕事、空港での搭載管理など運送に関わる仕事、そして総務や人事など一般管理部門の仕事である。このうち、最も貨物航空会社らしい仕事はやはり運送に関



実際の積み下ろし作業は外注されているが、それをスーパーバイズするのはNCAスタッフ。搭載方法ひとつにも長年のノウハウが反映されている。

「貨物航空会社は旅客航空会社のように豪華なシートや機内食などサービスで差別化することはできませんから、こうした地上での業務が評価や競争力に直結します」

「基本は定時性や安全性などに対する地道な努力を重ねるということ。話題になっている新鋭機747-8Fの導入も、単に経済性だけでなく信頼性を高めるという目的もあります。貨物航空会社には中古旅客機を改造した老朽機を主体にしているところも多いですが、そういう機材ではどうしても不具

合による遅延や欠航が増えます。それではお客様が安心して大切な貨物をまかせることはできません。また予約にしても、貨物では「席が空いていればOK、料金はいくら」と簡単に決められません。貨物は大きさや重さ、性質がさまざまですから、予約部門がそうした打診を受けてから社内の各部署と相談しなければ返答できないというのが普通です。しかしNCAでは予約部門にそうした判断能力を持たせ、最初の問い合わせで即答できる態勢を整えました。おそらく業界最強の予約部門でしょうね。貨物の搭載作業は外部業者に委託していますが、そこにもNCAならではのノウハウが活かされています。従来の貨物航空会社では輸送は無理だとされていた貨物、たとえば大型ヘリコプターなどのように、まずNCAが工夫して運べるようにしたという例は少なくありません。

「カーなどお客様の貨物を集め、航空会社に運送を委託します。つまり航空会社を選ぶのはフォワーダーなのですが、デリケートな運



NCAのアンカレッジ空港事務所。海外ベースは所帯は小さいが、それだけに「自分たちで力を合わせて飛行機を飛ばすのだ」という醍醐味がある。

貨物便は機内サービスでは差別化ができないため、空港での業務が競争力を左右する。そしてNCAは貨物専門会社として、その充実に力を入れている。



お話をうかがった方
総務部人事チーム
チームリーダー
岡 裕昭さん

送を必要とする貨物についてはメーカーからNCAをご指名いただくことも多い。私たちの仕事は縁の下で力を発揮するようなものですが、それでも見ている人はしっかりと見て評価してくださっている。それはとても誇らしく思っています」

ちなみにNCAは日本郵船とANAなどが出資して設立され、運航面についてはANAが全面的にバックアップしてきた。しかし05年8月にANAは保有株式を日本郵船に譲渡し(これで同社はNCAの株式の過半数を取得)、運航面についても完全自立化することになった。

「いわば第二の創業期といえるくらい、劇的な改革を進行中です。安定志向の人はともかく、こうした激動の場でこそ自分の力を発揮してみたいと考える人には、やりがいのある職場だと思いますね」